

北東アジア課長

()

政 35-10 号

昭和

昭和48年7月25日

外務大臣 殿

大韓民國
後宮大使

(件名)

韓国原爆被害者援護協会
会長等、訪日について

引用公・電信
目付・番号

7月25日 韓国原爆被害者援護協会

副会長 徐錫佑 氏 手紙に 語誌

を以て 次々として 御報告申
上げます。

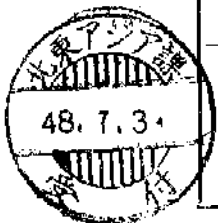
付属添付 付属空便 (行) 付属空便 (DP) 付属船便 (貨) 付属船便 (郵)

本信送付先:

本信写送付先:

省内写配布希望先:

1416



1. 韓国原爆被害者援護協会会長 趙判石
 (1914. 6. 2 生) 氏、核禁会城事務局長 小川泰
 の招聘により、7月27~8日約2週間の訪日
 した。目的は、核禁会城の計画による
 陝川診療所(予算1,500万円)の建設に
 ついて折衝を目的として行なうため。8月1日(広島)
 4日(長崎)の原爆被害者慰霊祭に出席
 した。核禁会城は、診療所建設
 のため現在300万円の寄附金を徴集し、
 今後、^{税金による}大規模なカンパ活動を行なうこと
 にしている。建設場所は、現在の陝川^{保険}診療所、
 隣接地約100坪の国有地を予定している。
 建物に800万円、施設医療費に700万円
 を概算している。なお、原爆患者の診療には
 昨年、核禁会城の世話で広島原爆病院に

3ヶ月間研修した陝川保険所長を扱った
 ことになった。

2. 現 副会長、私 (徐錫佑 1914.10.15生)
 と釜山支部長の李小石 (1927.9.3生) 也。

同時期に、韓国、原爆被害者支援打
 合 (大阪府吹田市排山台 7-36-5) 会長

本吉義宏の招聘により訪日し。

各種懇談会や慰霊祭に出席すること
 になった。

具体的な日程は今の所
 未定らしい。